

陽の里

発行 平成28年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.126

テーマ 40周年記念事業



▶サンビレッジ宮路より朝日を望む

新年あけまして

おめでとうございます



社会福祉法人 新生会

名誉理事長

石原美智子

皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、今年は「社会福祉法人・新生会」が四十周年を迎えます。その間、高齢者福祉の世界も大きな変化がありました。

開設当時は措置費制度（税金のみでの運営）で、基本的に利用者に入所決定の自由はありませんでした。利用料も利用者の所得に応じての支払いでした。その後、介護保険が出来、利用は利用者側が事業所などを決定出来るようになり、利用料は要介護度によるようになりました。

理事長もその間、三代変わりました。初代は創設を、二代目はそれを発展させ、そしていまの理事長です。これからは財源も人手も厳しい時代を迎えます。その中で如何により良い事業を発展させるか。

幸せなことに、四十年という貴重な経験で積み上げた文化、事業体だけではなくすべての地域、岐阜、瑞穂、大垣、池田で住民と共に歩んできた歴史の上にあります。この歩みを止めることなく「自立」と「尊厳」を基本とした着実な実践を継続することで豊かな社会の実現が可能だと信じています。



40周年記念事業 中庭改修工事



社会福祉法人 新生会
理事長・医師

今村 寧

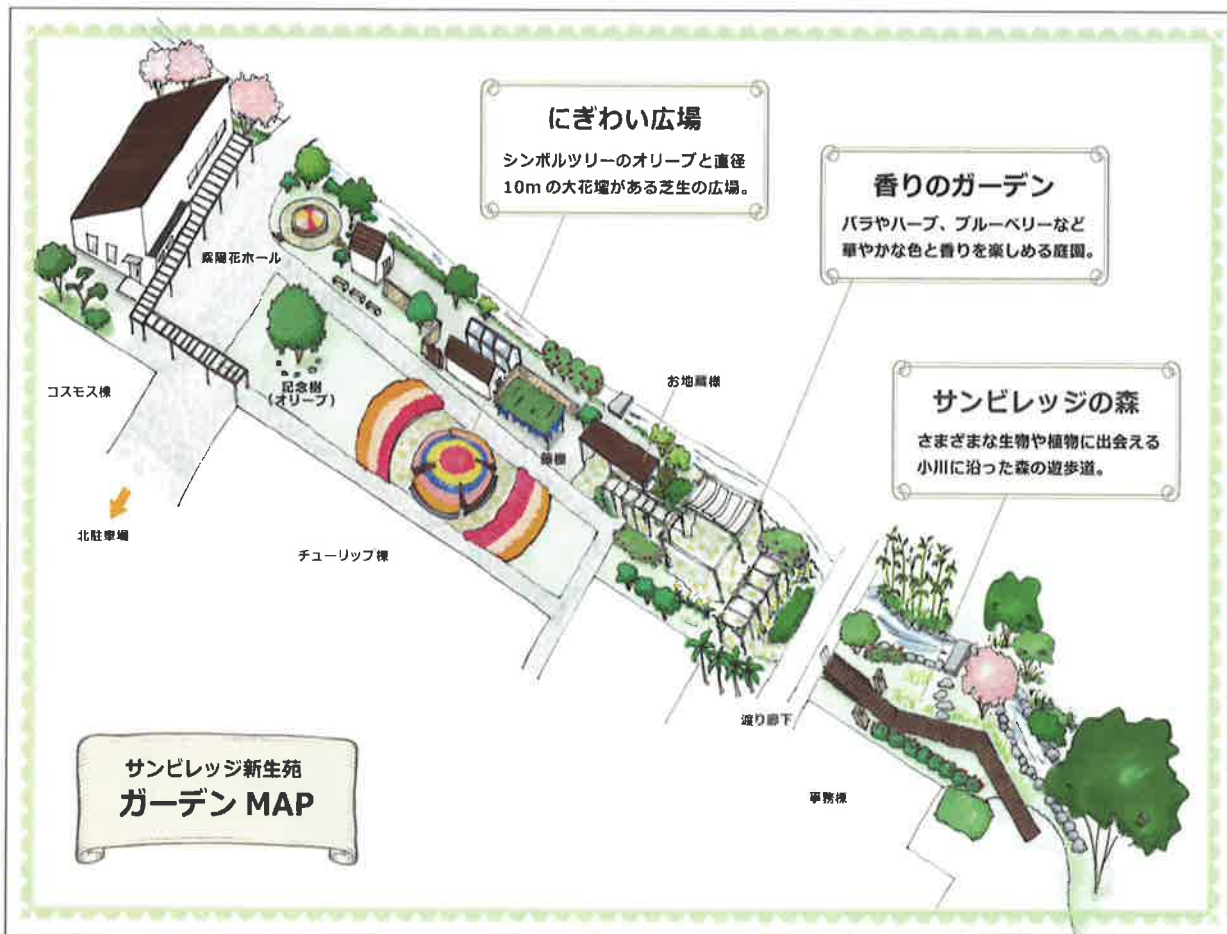
あけましておめでとうございます。

今年には社会福祉法人新生会の40周年の年に当たります。新生会もサンビレッジ新生苑から始まりましたが、サンビレッジ宮路・サンビレッジ大垣・サンビレッジ岐阜・サンビレッジ瑞穂・リハビリセンター白鳥と岐阜・西濃地区を面でカバーできる拠点が出来上がりました。本部であるサンビレッジ新生苑も常に快適な生活環境を維持するために、改修・増築を行ってきましたが、昨年からは中庭の改修に着手しております。今年の特ウリップ祭りでは40周年の記念式典も行いますので、そこで中庭の改修のお披露目も行いたいと思います。この中庭は一年を通して花を楽しめるように工夫してあります。多くの方が中庭を見てみたい、近くで四季を感じてみたいと歩いて利用してもらえらることで、自然から力を受け取って頂き、皆が健康でいられるようにと願っております。

また、中庭には新しく多目的ホールを新築いたします。名称は「紫陽花（あじさい）ホール」としました。ここは以前には喫茶室「いこい」があり、その後デイサービスセンターあじさいがあつた場所になります。4月のチューリップ祭りではこも利用して楽しい催し物を開催いたしますので、楽しみにしてください。

新生会にとって40周年は大きな節目になります。人材は人財。すべての質を担保し、また向上させていく原資は人です。高い教育による専門家の養成を行うサンビレッジ国際医療福祉専門学校と共に人財の育成を

さらに進め、福祉のパイオニアとして常に高みを目指して精進いたします。そのためには多くの方々の方々の支えがあつてのことと思います。これからも皆様のお力を貸していただければ幸いです。よろしくお願い致します。



「しんせい語録」の読み解き

『説得』よりも『納得』



（株）新生メディカル 大垣営業所

北ステーション 高橋三恵子

一人暮らしで認知症のKさん宅を訪ねた時の出来事です。玄関での呼びかけに応答が無く勝手口から何度か声を掛けました。現れたKさんは「何しに来た。亡くなった主人にお経をあげていたのに邪魔をした」と血相を変えて怒り取りつくしまありません。

その時、私は毎日この時間に訪問しているヘルパーである事を伝え、食事の支度をさせてもらえよう説得しようとした。しかし、怒りの収まらないKさんを見て、亡くなった御主人の話をよくしていた事、独りになって寂しい辛いと泣いていた事を思い出したので。Kさんにとってお経をあげる時間は御主人に思いを語りかける大切な時間で、邪魔され



新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

排泄を他人に託さなければならぬ痛みを心に刻む



サンビレッジ瑞穂 山田奈歩

たとの怒りはもつともな事だと思えました。私の中にKさんへの謝罪の気持ちや一緒に仏壇に手を合わせたいとの思いが生まれ、素直にそのことをKさんに伝えました。そうしてお宅に入りケアを受け入れてもらう事ができたのです。この事から『納得』とは、まずヘルパーである私自身が日頃のアセスメントを基に利用者の状況・心情を共感・理解して「納得」する事であり、そこから利用者に「納得」してもらえ対応が見えてくるといふ事だと学びました。



▲利用者と一緒に手を合わせるヘルパー

私達の行う生活支援の一つに、「排泄介助」があります。排泄介助は適切な介護技術に加え、相手への羞恥心への配慮が求められますが、「排泄に介入する」という捉え方ではなく、「関わらせて頂く」支援である意味について現場で利用者から学んだ「痛み」を振り返ります。利用者Aさんがある日、失禁があった時のこと、「あら、服が汚れてしまったので着替えを部屋から取ってきますね」といつものように声をかけると「はい」と言われたため、いつもと同じように衣類交換を行い、トイレでの排泄を済ませ仕事を終えます。

なに謝らないでください。大丈夫ですよ」と声をかけてもその方はずっと私の方を見ながら申し訳なさそうな顔をしていました。そして「ごめんね。あなたの手汚れちゃったね。自分で出来ればいいんだけど」と小さな声で言われました。私は成人してから自分の排泄を他人にして貰うこともなければ、汚れた衣類を他人に着替えさせてもらったこともありません。正直、他人に排泄を任せてしまったらどんな気持ちになるのか？オムツ体験からオムツをつけることの痛みは感じられましたが、他人に任せる痛みまで考えられていないことに気が付きました。

そして、又別の日もその方の衣類交換になってしまったため、いつもと同じように声を掛けたら「ごめんね。本当にごめんね」と何度も申し訳なさそうな顔をして私に謝られることがあった。私は「そん

他の利用者の方には排泄に関わらせて頂くと、怒られる方もみえます。しかし同じ気持ちなんだろうと察するようになりました。私たちにとっては、介護・介助と表現してしましますが、関わられる本人からはとても恥ずかしく、他人には最も触れられたくない行為であることを心に刻んでこれからは相手の立場に立った関わりを考えるワーカでありたいと思います。

vol.12

「サンビレッジの仲間たち」

成長できた十二年間

訪問看護ステーションリーダー 高橋尚美

私はサンビレッジに入職して約十二年になります。病院勤務を経験してから、新たな訪問看護の分野に飛び込み、ここまで走り続けてきました。

今までたくさんの方と出会って、その家族の方たちとの出会いを繰り返してきました。通常、他人の家の中に入り、身の回りの支援をさせていただくことはないでしょう。それでも、私を受け入れてくださり看護を実践できる機会を頂いてきました。感謝の気持ちでいっぱいです。初めて出会う方たちの困っていることを聞いた時、どのようなニーズが隠れているのかを探したり、関わりを深めることでどんどん信頼関係が成り立っていくプロセスは、看護師としてだけでなく、社会人としても私を成長させてくれました。

訪問していつも一番に考えることは、「この方がどうしたら安心して生活ができるか」ということです。一回の訪問で得られる情報では足りません。そんな時、チームメンバーの看護師や利用者に関わるすべての職種の方と相談ができ、共に考える仲間が必要です。チームの中で自分の役割を自覚しそれぞれが目標をかなえるお手伝いを続けていきます。

この、十二年ほどの間に「変わったね」といわれることが多くありました。これから一〇年後、二〇年後はどう変わっているでしょう。これからも自分の成長を楽しみたいです。



今日も主治医と連携を図り自宅へ健康管理、生活支援に出かけます

トピックス

8周年記念市民講座

10月13日～16日までの4日間、岐阜シティ・タワー43の8周年を記念して市民講座が開催されました。

今年のテーマは『「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に～みんな安気にいこまいか～』です。

在宅医、歯科医師、薬剤師、司法書士、在宅介護サービス事業所などが全9つの企画・講座が実施され、延べ270名の方が参加されました。

参加された方からは「これからの事を自分で決める為に、色々な事を知ったり、準備したりすることが大事だと分かった」との感想が多く聞かれました。

この市民講座が、多くの住民の方に、ご自分の「これからのこと」について考えるきっかけになったようです。



テーマに沿った話に真剣に、そして楽しく講座に向きあう参加者

陽の里まつり開催



10月17日爽やかな秋晴れの下、陽の里まつりを開催しました。この陽の里まつりはサンビ校の学園祭、リハビリセンター白鳥の収穫祭が一体となった催しです。

リハビリセンター白鳥が開設して3年半。学生の第二の学び舎、臨床実習の場としての活用の幅も年を追うごとに広がってきています。

学生は数年後には介護、言語、作業という各領域のプロとして羽ばたいていきます。それを前に、陽の里まつりでは行事・イベント企画のプロセスを学ぶ機会として、職員、学生の合同開催と位置付けています。

その狙い通り、企画の段階からコミュニケーションを図り、まつり当日も互いに協力し合いながら、盛大の内に終わることができました。